

長門市総合文化財センター

ヒストリアながと

かわら版

発行：令和7年2月

長門市市制20周年記念 尾崎眞吾 市報に使われた原画展

2025年2月20日（木）～2025年5月11日（日）

2005年3月22日、旧長門市と大津郡三隅町・日置町・油谷町が合併して現在の長門市が始まりました。新生長門市の広報誌第1号から現在に至るまで裏表紙を飾っている「尾崎眞吾のみすゞギャラリー」では、童謡詩人金子みすゞの詩とともに、イラストレーター尾崎眞吾氏のイラストが掲載されています。本企画では、尾崎氏の広報誌を飾ったイラスト原画とともに、長門市の20年間の歩みを振り返ります。会場では尾崎氏のイラストの他、ペン画やアニメーション作品なども紹介します。



尾崎眞吾氏

1944年、山口県に生まれる。

カンザス・フォートヘイズ州立大学(USA)の大学院美術学部修士号を取得。1971年の全日本コマーシャル協議会フィルムフェスティバルにてグランプリ賞を受賞して以降、国内外で評価を受ける。

1996年、長門市西深川にギャラリー喫茶「ショアーズ」をオープンし、同所を拠点に活動を広げる。

2018年には山口県「県選奨」を受賞。

尾崎眞吾「辨天島」
(長門市広報2020年12月号掲載)



尾崎眞吾の水さいがワークショップ

参加者募集

尾崎眞吾氏を講師に迎え、水彩画の描き方を学びます。

開催日時 3月16日（日） 10:00～11:30
対象 小学生（3年生以下は保護者の同伴をお願いします）
募集人数 15人（応募多数の場合は抽選）
参加料 無料
場所 ヒストリアながと別館
持ち物 絵の具、パレット、水バケツ、筆、新聞紙、ぞうきん

※画用紙はヒストリアながとで準備しています。

お申込みはコチラ▶



尾崎眞吾「郵便局の椿」(長門市広報2005年7月15日号掲載)



殿敷侃(1942-1992)は、広島県出身の画家です。3歳の頃に被爆、20歳のときに肝臓病を患い入院した先で絵を描き始めました。広島を中心に美術展への出品を続けていましたが、30歳のときに長門市に拠点を移し、亡くなるまでの20年間に過ごしました。長門市では絵画教室を開き、地域の人々との交流を図りながら創作活動を続けました。

本展では地域に残る記録とともに長門市が所蔵する作品を展示し、長門市ゆかりの芸術家・殿敷侃について紹介します。



松岡材木店(仙崎)の壁画制作風景

海を渡ってきた黒曜石

2025年3月7日(金)～2026年3月1日(日)

およそ1万6千年前、長門地域に最も早く人々が住み始めたと言われる雨乞台遺跡(長門市日置)からは、旧石器時代から縄文時代に製作されたと考えられる多くの石器が出土しています。その中には、佐賀県の腰岳や大分県の姫島産の黒曜石を使った石器も多く見られます。本企画では、腰岳産、姫島産の黒曜石の原石を展示します。



姫島産黒曜石(右)と腰岳産黒曜石(左)
(山口県埋蔵文化財センター蔵)

長門のお宝 大般若経

前期 2025年3月7日(金)～2025年6月29日(日)

後期 2025年7月5日(土)～2025年9月28日(日)

長門市内には、文化財に指定された大般若経が2点あります。どちらも14～15世紀に書写されたもので、それぞれ飯山八幡宮(長門市東深川藤中)と三隅八幡宮(長門市三隅中市)に所蔵されています。この度、この2点の大般若経を前期・後期に分けて紹介し、経典が書かれた中世の長門市について理解を深めます。



三隅八幡宮

長門市総合文化財センター

ヒストリアながと



長門市東深川 2660 番地 4 TEL 0837-22-3703 FAX 0837-22-3700

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

入館料 無料 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)

最新情報は
こちらから⇒



▲ Facebook



▲ Instagram



▲ X



▲ HP

